

EM菌で放射能が完全消滅した!

——農地も、作物も、人体も“除染”できる——



(地球環境問題評論家)
船瀬 俊介

土壤放射能が2か月で
75%消えた!

75%消えた!

「微生物で放射能を消す」人類史上初の挑戦が成功しています。「放射能」だまされてはいけない! (仮題、徳間書店) という最新本を書きました。2月中に刊行予定です。

その中で、衝撃事実が明かされています。微生物 (EM菌など) による放射能完全消滅実験の成功です。それは農地の放射性物質をゼロにします。さらに作物の残留放射能もゼロに! 加えて、体内被ばくの放射能も消滅させる!

あなたは、耳を疑うはず。従来の科学の“常識”では、ありえない……とされていたからです。

しかし、現代我々が“科学”“常識”と信じてきたものは、地球を支配する見えない勢力によって、捏造操作されたものです。今回の微生物による放射性物質消滅! この画期的実験結果は、これら隠された真実を白日の下に晒したのです。

政府“除染”の正体はただの“移染”

いま日本列島は底無し放射能汚染の恐怖に晒されています。住宅地だけでなく、土壌も農地も山林も恐ろしいレベルで汚染されています。山間地の汚染セシウムは雨が降るたびに低地の住宅地や農地に流入しています。これに対する政府指導の除染作業は、きわめて原始的。表土を削り取り、汚染土を一定場所に積み上げ保管する。

住宅地は草刈りや高圧洗浄などで放射性物質を除去する……。しかし、このやり方では、ただ放射性物質を右から左に移しているだけ。高圧洗浄で放射性物質が消えるわけではない。水に混ざった放射性物質は最終的には下水処理場の活性汚泥に濃縮され行き場をなくす。その他の放射能は河川に流入し最後は海洋汚染する。セシウム等は魚介類に濃縮され“毒”魚は、市場から食卓にのぼる。

環境省は、1月26日: 福島県「警戒避難区域」(11市町村)の放射能除染「工程表」を発表しました。「除染を2014年までに終了し、50ミリシーベルト以下を目指す」というものです。しかし「表土を削り取る」という原始的なやり

方では、その正体は“除染”ではなく“移染”にすぎません。国土に蓄積する放射能総量は変わらない。

土壤放射能が2ヶ月目に
75%減った!

75%減った!

放射能自体を消滅させないと、真の“除染”とはいえません。ところが奇跡の「放射能消滅!」が現実のものとなりました。

——土壤の放射能が1ヶ月で40%減った! 2ヶ月目には75%減った!——

奇跡をもたらしたのがEM菌散布です。最も汚染が激しい飯館村の土壌中の放射性セシウム濃度が激減。それも科学的に厳密管理された散布実験で実証された。あなたは目を疑い、耳を疑うはずです。

実験指導したのが比嘉照夫教授 (農学博士。名桜大学付属・国際EM技術研究所所長・教授)。EM菌の開発者です。お会いすると、いつも笑顔を絶やさない円福で温厚な人柄に一目で魅かれました。2時間余りのインタビュで、目からウロコの体験をしました。教授は約30年前、①光合成細菌、②乳酸菌、③酵母菌を三本柱とす

るEM菌群の驚異的効能を発見。「善玉菌」の集まりであるEM(有用微生物群)を使用することで、だれでもかんたんに「善玉菌」優位の環境を整えることができます」(比嘉教授)

このEM菌が放射能を消去する！その兆しは、すでにチェルノブイリ原発事故のときに、観察されています。教授らは1990年代からベラルーシ国立放射線生物学研究所と共同して、EMで放射能を防ぐ実験を開始。同国はもともと放射能汚染の過酷地帯です。そこで比嘉教授らは感動的体験をしています。

①「農業」改善…EMをまくと育った作物が吸収する放射能レベルは明らかに少ない。「他の安全地帯と全く同じレベルになった！」。福島第一原発事故の汚染地域にもあてはまる。EM菌散布で原発から30キロ以内の「汚染危険地帯」でも「その影響をほとんど受けない作物を栽培できる！」。

②「健康」改善…放射能被害を受けた子どもたちにEM・X飲料を飲ませて経過をみた。すると大幅な症状改善がみられた。白血病や

甲状腺ガンが完全に消失した症例もあった。この事実により、ベラルーシ政府により「医学的に放射能障害に特効あり」と公認された。

③「土壌」改善…1998年、夏、チェルノブイリ原発事故の立入禁止地区での調査・前年度にEM処理した麦畑や放牧地帯を調査するためです。携帯した放射能計測機は、どこでも1時間あたり100マイクロレントゲンという高い値を示していました。ところがEMを散布した畑の中心部は85〜90値、EM処理区の外側と内側を測定し、中心部の放射能は10〜15%減っていたことを確認した。

飯館村、EM菌で「放射能」消滅

2011年5月10日より飯館村、果樹農家で比嘉教授の指導の下、EMによる放射能除去実験開始。対象地域は約20アールのブルーベリー園内にA…「EM処理区」、B…「EM+有機物処理区」、C…「無処理区」の3区域を設定した。とうぜん、この地域の土壌は高濃度で放射能汚染されている。

A…「EM処理区」、光合成細菌(EM3号)を20%添加し強化し

た「EM活性液」を散布した。方は週に2回、10アールあたり100リットル散布した。

B…「EM+有機物処理区」、Aの「EM活性液」散布に加えて有機物(米ぬか)を1回散布した。

C…「無処理区」、比較対象のため何もせずに放置した。

実験開始から1ヶ月、2ヶ月後、土壌中の放射性セシウムの計測は、正確を期すため・同位体研究所に送付して、計測を委託した。そこでは高精度のゲルマニウム半導体検出器により測定が行われた。試料とする土壌採取も、文科省の「環境試料採取法」および農水省の「通知」にしたがい「深さ15cm」までの土を採取して研究所に送付した。

実験開始直後の放射性セシウム濃度は2万ベクレル(Bq/kg)以上という驚倒する数値だった。

ところがA、BのEM処理区では劇的变化が起きた。

放射性セシウムは1ヶ月目に40%減、2ヶ月後には76%減の5000ベクレルまで激減…！「試験圃場では約2ヶ月間で放射性セシウムが15000ベクレルも減少していることが認められました

た」(比嘉教授)

放射能(放射線150000ベクレル)がEM菌により「消滅」したのです。

数千ベクレル汚染作物が

1ベクレル以下に

「10年ほどEM栽培している農家では、畑は放射性セシウムが2000ベクレル以上あるのに、その作物から「不検出」という現象が起きています」(株イーエム・ジャパン報告)

2012年1月11日、比嘉教授の沖繩発表会での最新データ。

教授は「究極の放射能汚染対策」と胸を張る。そして、それは「東日本大震災復興への道筋」なのです。農地土壌は1779〜6083ベクレルまで高濃度にセシウム汚染されています。それなのに、小松菜、ほうれんそう、梨、きゅうり、なす、玄米、全て「不検出」(1ベクレル以下)！まさに、EM菌による放射能除染効果はパーフェクト。セシウムは水溶性なので簡単に根から作物に移行する。なのに栽培作物には、それが見られない！奇跡のEM効果…！

「農地」究極除染法、即、採用せよ

検査方法は、厚労省指導の「緊急時における食品の放射線測定マニュアル」に従い、さらに検査は第三者機関による厳正なものです。「ゲルマニウム半導体γ線スペクトロメトリーによる核種検査」。さらに注目して欲しいのは「検出限界・1ベクレル(Bq/kg)」と極めて厳密な検査であるという事実。つまり「不検出」とは「1ベクレル以下」を意味します。つまりEM菌農法の農地では、高濃度セシウムは恐るるに足らず。

「EM活性液を10アール当たり100〜200リットルくらい施用すると、6000ベクレル超の土壌でも『検出限界値』(1ベクレル)以下になっており、万全を期すことが可能である」(比嘉教授)。

汚染農地でもEM菌液をまくだけで作物のセシウム137を1ベクレル以下にできる！これぞ究極の放射能除染です。

その方法は、(作物は)収穫の1〜2週間前、果樹なら3〜4週間前に測定し、もしも『検出限界値』以上の放射能が確認された場

合でも『EM活性液』と『EMセラ

ミックスパウダー』の葉面散布と土壌施用をていねいに行うと、出荷までには『検出限界値』以下にすることが可能である」(比嘉教授)

「WHO(世界保健機構)が定めたセシウム137の身体放射線の『安全基準』が0.5ベクレルであることを考慮すれば当然のことです」「わが国では、セシウム137による汚染が問題となっているが、放射性ストロンチウムにも大いに効果を発揮するのです」(同教授)。

EM活用でストロンチウムは「作物にまったく吸収されない」ことが、チェルノブイリ原発事故の被災地となってベラルーシ国立放射線生物学研究所で1996年に明らかになっています。

EMで体内セシウム完全消滅!

——EM菌は外部被ばく、内部被ばくも打ち消す——

この衝撃事実も証明されました。EM飲料1日50cc服用、40日でセシウム137の身体負荷量は「完全消滅」したです。

まさに、光合成細菌、乳酸菌、

酵母など微生物パワーの奇跡……。

ベラルーシから実験に参加した子どもたちは高汚染地域に住んでいる。日本へ出発前に現地で「放射能全身計数装置」等で「体内被ばく」を測定後、日本へ入国。療養期間は7月23日から8月31日の40日間。招待した21名の子どもたちの平均年齢9.7歳。7名ずつのA、B、Cの3グループに分けた。()内は、出発前のセシウム137「身体負荷量」(単位、ベクレル \parallel Bq/kg)

(1) A群.. EM・Xを1日30cc服用。(81・61) ↓ (26・78)

(2) B群.. 同様に50cc服用。(88・65) ↓ (全員測定不能.. 正常値)

(3) C群.. 飲まないグループ(対照群)(62・99) ↓ (33・81)

EM 50 CC 服用で全員正常値に

「療養が終了した8月31日後、ベラルーシへ帰国した直後に測定した結果は、A群が26・78に減少、B群は全員が測定不能すなわち正常値となったのである。C群も33・81とかなり減少したが、ベラルーシ政府の目標である15〜20に達することは困難であった」(比

嘉教授、原著)

この実験は、EM・Xの持続性について検討するため子どもたちの帰国後10月と12月の2回に亘って「身体負荷量」を測定している。A群は、12月2日時点で、帰国の26・78より、さらに下がって22・16になっています。もともと多くEM・Xを飲んだB群は、全員、測定不能の正常値！C群は37・31と帰国後より汚染数値が高まっています。これは高度汚染地域に帰ったことによる再汚染で、従来のパターンが確認されたのです。「EM・Xは、1日当たり50ccを服用すると40日でセシウム137の身体負荷量を『完全に消去する』と同時に、『耐放射性機能が長期にわたって保持される』」(比嘉教授)

EM菌で放射能が消滅したメカニズムは、この連載で述べたように、放射線などを「エサ」とする光合成細菌等が放射性物質を「食べて」核崩壊エネルギー(放射能)を生命エネルギーに転嫁したからでしょう。いわば——ライフル銃がコルク銃となった——のです。